

創刊

150号を記念して

学院宗教部長 伊藤 悟

『ウェスレーホール・ニュース』が150号を迎えたことをまことに感慨深く思います。13～14ページに紹介されている各号の表紙を見るだけでも、時代の流れや、その時々^{そのとき}の青山学院の姿をうかがい知ることができます。

本誌は、1968年に学院創立90周年記念事業として建設されたキリスト教活動の拠点「ウェスレーホール」がまだ建築計画段階であった1964年に創刊されました。当初は宗教主任会が編集・発行を担い、年4回刊行されていました。しかし1969年以降の大学紛争の影響を受けて、1971年の24号をもって廃刊となりました。この時期の誌面には、青山学院の教育のあり方を問い直す論説や座談会記事が多く掲載されています。

その後、1980年代に入り学院全体が落ち着きを取り戻す中で、1984年に『ウェスレーホール・ニュース』は復刊されます。現在の150号は、この復刊から数えての通算号数です。1989年には表紙にカラー写真が用いられるようになり、80号以降は各設置学校のキリスト教活動を伝える写真が多く採用されています。101号からは装丁が大きく刷新され、140号以降は現在のA5判中綴じの形になっています。

建物としてのウェスレーホール（1968～2023年）の姿はもうありませんが、本誌（24号+150号）は、創立152年目を迎える青山学院のキリスト教教育と学院宗教センターの歩みを今に伝える貴重な資料と言えましょう。これからも本誌が、サーバント・リーダーの育成を目指す青山学院の跡と声を確かに記録し続け、ますます学院に連なる一人ひとりの記憶と実践を結び、信仰と教育をつなぐ媒体としての役割を果たし続けることを期待します。